

「少年の主張」県大会

最優秀に植田さん(山添)

スマホ依存克服を語る

第44回「少年の主張」県大会「わたしの主張2022」(奈良新聞社など後援)が4日、山添村大西の「ふれあいホール」で開かれた。この日は入賞者10人が発表し、最優秀には同村立山添中学校3年の植田琴羽さんの「後悔する前に行動しよう」が選ばれた。植田さんは「中部・近畿ブロック大会」で3人に選出されれば「少年の主張」全国大会に進むことになる。

同県大会は中学生による主張発表大会。今年は17校から2488作品の応募があり、原稿審査で入賞者のほか努力賞90人がすでに決定している。1人が欠席、別の1人は映像での参加。新型コロナウイルス感染防止の観点から入場者は関係者のみで行われた。

舟木豊真文化・教育・くらし創造部長は「入賞した作品は悩みと向き合い、正面から自分を見つめ直すなど素晴らしい内容。堂々と胸を張って主張してくたさい」と激励。野村栄作村長も「力いっぱい思いを発表し、これからも自分の考えを伝えていってください。そしてずっと青春真っただ中でいてほしい」とエールを送った。

主張はコロナ禍の中、障

害者や高齢者に接する仕事をやる両親が、感染防止に日々真剣に取り組む様子をみて、「僕一人くらいならいい」とどこか自分本位だった自分の姿を反省。思いやりの心を持つ重要性に気づいた「僕たちはみんなつながっている」や、思ったことをすく口にしていま



中学生らが堂々と意見を発表した「少年の主張」県大会「4日、山添村大西のふれあいホール」

のスマホを持ったことから勉強に身が入らなくなるなど「スマホ依存」になった中で、自分に向き合い、スマホは1日2〜3時間まで、テスト期間中は触らないという「自分のルール」を作ったことで「以前よりスマホのことが気にならなくなった」体験談を披露。「自分なりにルールを作ることは大切。後悔する前に行動を」と力強く意見を述べた。

ほか優秀賞には、辻菜月さん(香芝市立香芝北中2年)の「当たり前前の幸せとおじいちゃん」、大西未葉さん(同市立香芝西中2年)の「偏見の目におしつづかれる」が選ばれた。他の8人は優良賞となった。

